

はじめに

コロナ禍にあって教会の活動は制約を課されているが、どんな状況にあって感謝にあふれて共に歩み続けるために、キリストのことばを豊かに住まわせることが重要である。その恵みを確認したい。

1. 古い人を脱ぎ捨てて新しい人を着た

- ・「あなたがたは古い人をその行いととも脱ぎ捨てて、新しい人を着たのです。」(9～10節)

古い人 (8節) : 怒り、憤り、悪意、ののしり、口から出る恥ずべきことば → 捨てた

新しい人 (12節) : 深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容 → 着た

- ・新しい人は、それを造られた方のかたちにしたがって新しくされ続ける(10節)とあるように、新しい人を着た者は日々キリストに似たものへと変えられ続けている。さらに、自分の力に頼ることなく、キリストの平和による支配にゆだねることで、新しい人は私に定着し、その恵みは浸透する。
- ・新しい人を着るとはキリストを着ることであり、これにより私たちは主にあって一つのからだ、教会として建てあげられていく。教会を惑わす偽りの教えなどから守るために、この恵みを思い起こさせ、さらにはキリストのことばを豊かに住まわせることで具現化するよう導かれている。

2. キリストのことばを「豊かに」「住まわせる」

- ・キリストのことばを住まわせるために、その住まい(一人一人の心と教会)をふさわしく整え維持し続けなければならない。それは神に愛されている者として互いに愛し合い、忍耐し合い、赦し合い、教え合い、忠告し合うことによってキリストのことばが根を張り、実を結ぶことによって成る。
- ・キリストのことば、福音の豊かさは「計り知れない富」(エペソ 3:8)といわれるほどのものである。新しい人を着ているからこそ、福音の豊かさはより深く広く味わうことができ、分かち合うことができるのであり、福音がさらにゆたかに一人ひとりの内に、教会の内に深く浸透し、溢れてくる。
- ・福音の豊かさは主への賛美と礼拝となって私たちからあふれ出て現れてくる。主の前にふさわしい礼拝がなされていることは、キリストのことばが豊かに住んでいる証しとなる。私は、私たちの教会はどうであろうか。コロナ禍にあって変わらない、主を礼拝する喜びがここにある。

3. 感謝をもって、すべてを主の名によって

- ・(日本キリスト改革派教会 大会教育委員会『信徒の手引き』より抜粋)「感謝」の源は、私たちの心の内にはありません。どんな事柄にも感謝すべきことを発見させ、気づかせるのは、「キリストの言葉」です。「キリストの言葉」を豊かに宿らせる人は、感謝の機会をのがさず、苦境にあって、なお感謝を失うことはありません。それでは「キリストの言葉」を、どこで豊かに宿らせることができるのでしょうか。それが礼拝です。礼拝において、まず自分自身が「キリストの言葉」に豊かに満たされるように祈りましょう。
- ・(神学者のアブラハム・カイパー)「人間の活動の全領域の中で、すべてに主権を持たれるキリストが、『これはわがものなり』と主張できないような領域は一分たりとも存在しない。」
- ・私たちの思いや行いのすべてがキリストのことばによって規定されるならば、すべては主への感謝の賛美となってささげることができる。教会の、キリスト者の特徴の一つは「感謝」である。

おわりに

すべてのことはキリストのことばを聞くことから始まる。そのことば、福音の豊かさは計り知れない恵みであるがゆえに、私たちを日々キリストの姿へと変え続け、主にある幸いとともに味わわせ、キリストのことばを豊かに住まわせることができる。そうして、いつ・どんな時でも、主にある感謝と喜びをもって歩み続けることができる。今週もそのような歩みができる幸いを感謝しつつ歩みたい。